

# 「王の舞」の系統を継ぐ 安曇川の春祭り

4月～5月ごろは、市内各地の神社でさまざまな春祭りが行われます。今回は、その中で、福井県若狭地方の「王の舞」の系統を受け継いでいるといわれる安曇川の春祭りを紹介します。

安曇川町常盤木の**三重生神社**の春祭り（写真①）は、近年では4月29日が祭礼日となつていま

す。この祭りは、かつては行列の中に神牛（かみうし）が加わっていたことから「牛祭り」と呼ばれていたことが江戸時代中期に記された『近江輿地志略』に登場し、大変古くから続く祭礼であることが分かっています。その祭礼の中で行われるのが、「天狗」「王の鼻」

等と呼ばれる「王の舞」の系統を継ぐ神事です。

## 起源は稲作に関係する芸能

「王の舞」とは、平安時代末期から鎌倉時代にかけて、主に大規模な神社の祭礼などで、田楽（たがく）（田植えを楽器や歌で囃すこと）から始まった芸能踊りや獅子舞に先立って演じられていた芸能で、現在も福井県の若狭地方に多くの事例が残っています。一般的には、

赤い鼻高面を被って前半は鉾（ほこ）を持ち、後半は素手で四方を鎮めるように舞い、それを太鼓や笛で囃します。ただ、祭礼の中の神事の一つとして行われるようになると、祭礼の場を祓い清めることを目的に演じられることが多くなり、少しずつ形態を変化させながら、各地に伝播していったと考えられています。

## 「王の舞」に関係する神事

三重生神社で現在行われる「天狗」では、中学生の男子が木製の鉾を手に持ち、鼻高面を付けて、本殿と拝殿の間に立ち、鉾を左脇に抱えて高く飛び上がる振りをします。さらに、その後演じられる獅子舞と併せて、古くから伝わる神事とされています。

また、安曇川町三尾里の**箕島神社**の春の祭礼（写真②）で行われる、地元で「棒振り」と呼ばれる神事も、同じく「王の舞」の系統を受け継ぐものと考えられます。

5月3日に行われる現在の祭礼では、簡略化されている点もありますが、鉾を持って静かに動く振りや、「王の舞」との共通点が見受けられ、この地域で古くから引き継がれてきた神事であることが分かります。

さらに、5月4日に安曇川町下

小川の**国狭槍神社**の春の祭礼（写真③）で行われる「三々九度の式」も、「王の舞」に類似する神事です。ここでは、鼻高面をつけた男性が鉾をもって辺りを祓う振りを行った後、獅子舞が演じられます。

## 当時の文化交流を今に伝える

このように安曇川では、現在も複数の神社の祭礼で、「王の舞」の系統を受け継ぐ神事が行われています。「王の舞」が若狭地方で多く演じられていることから考えると、高島市域、特に安曇川流域周辺地域と若狭地方との深い文化的交流の歴史をうかがい知ることが出来ます。

圖文化財課 ☎(32) 4467

【写真①】 三重生神社の春祭り



【写真②】 箕島神社の春の祭礼



【写真③】 国狭槍神社の春の祭礼



## 編集感

少しずつ気温が暖かくなり、春の訪れを感じる季節となりました。私が小さい頃は、よく祖父母と一緒に山へ行っていて、野草や山菜を摘んで遊んでいたのを思い出します。

仕事をしていると昔と同じように気軽に出かけてみよう！とはいかないもの。でも、せっかくの暖かい時期！家のまわりを少し散歩するのもいい気分転換になるのかなと考えています。もしかしたら、ハコベやハルジオンなど小さな春を身近に見つけられるかもしれませんね。(E)

